平成5年度通常総会

題字は塩田前会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会
秋田市手形字中台一番地
TEL 0188(32)9553
印刷所
秋田オフセット
印刷株式会社

同窓会決算・予算

	平成4年度 決算額	平成5年度 予算額
〈収入の部〉		
入会金	3,348,000	3,312,000
年次会費	1,340,000	1,350,000
役員会費	1,860,000	1,800,000
協賛広告収入	580,000	650,000
基金運用収入	917,437	600,000
学校林収入	652,487	100,000
寄付金	50,000	10,000
雑収入	224,820	50,000
繰越金	1,944,798	3,274,404
合計	10,917,542	11,146,404
〈支出の部〉		
事務費	1,279,815	1,820,000
会議費	1,509,210	2,200,000
事業費	2,423,591	4,400,000
基金	2,000,000	2,000,000
雑費	169,726	270,000
予備費	260,796	456,404
合計	7,643,138	11,146,404
繰越額	3,274,404	0

新会長に丸山 健氏（昭和十四年卒）

今年度の通常総会が、例年より一ヵ月遅れで、母校の創立百二十周年記念式典の余韻が残る九月二十六日、秋田ターミナルホテルを会場に、百四十名の会員の出席を得て開催された。平成五年度の事業計画並びに収支予算、創立百二十周年記念事業報告、新役員の選出等すべて満場一致で承認され、総会後、佐々木毅氏による講演が行われ、出席者に深い感銘を与えた。

総会は、大坂谷邦雄氏（S36卒）の司会進行で始まり、事務局の神馬暹氏（S25卒）の開会のことばの後、池田和男氏（S42卒）の音頭で高らかに校歌を斉唱、引き続き物故会員に対して黙禱を捧げた。

次に、所用で欠席した塩田雄次会長に代って、小澤雄象副会長が「皆さんのご協力ですばらしい百二十周年記念式典や事業ができたことに感謝する。今日は次の百三十周年に向けての第一歩の総会であり、忌憚のない意見を出し合い、実りある総会にして欲しい」とあいさつ。また、硬式野球の県大会決勝の応援に行っている母校の椎名光雄校長に代って、畠山仁教頭が学校を代表して「同窓の皆さんのお陰で九月一日の記念式典、演奏会等を滞りなく終えることができて感謝している。この後生徒達の国内研修が控えており、東京の同窓の方々のお世話になるが、宜しくお願いしたい。また、学校の現況について言うと、部活動では野球のみならず他の部もよく頑張っている。進学面でも、現状より一歩でも前進するため、全職員一丸となって努力しているところである」とあいさつした。

その後、小澤副会長を議長に選出して報告及び議事に入った。最初に伊藤守一事務局長から、百二十周年記念事業を中心とした会務並びに事業報告がなされた。

続いて各常置委員会からの報告が行われ、企画委員会からは、現在の役員会費、年次会費を見直し、会員から会費を徴収する方向で次の総会で規約改正を提案したい旨の報告。広報委員会からは「同窓会だより」41～43号、「百二十周年記念事業広報」の発行と内容について説明があった。また財政委員会からは、百二十周年の寄付金が一億円の目標に対して現在八三〇〇万円集まっている旨の報告。名簿委員会からは「同窓会員名簿」第36号（平成五年度版）の発行について説明があった。

また、小玉正巳氏（S4卒）から、支部長会議において、校史資料館の運営を円滑にするため、会費を納入することの呼びかけをすることになったとの報告があった。

引き続き議事に入り、（1）平成四年度収支決算、（2）監査報告、（3）平成五年度事業計画並びに収支予算、がそれぞれ満場一致で承認された。次に（4）創立百二十周年記念事業報告が部門別委員会からなされ、合わせて事務局から収支状況が報告され、承認された。

次に役員改選に移り、かねてから健康上の理由で辞意を表明していた塩田会長に変って、新会長に丸山健氏（S14卒）が就任した。副会長は、小澤雄象氏（S12卒）小玉得太郎氏（S18）辻兵吉氏（S19卒）小林忠雄氏（S28卒）の四氏が留任し、新たに井上房子氏（S29卒）椎名光雄校長（S28卒）が選出された。監事は、三浦禮司氏（S25卒）米谷節郎氏（S26卒）の三氏が留任した。

また新たに杉淵一雄氏（S7卒）が参与に委嘱され、すべての議事を終了した。

「戦後日本の軌跡をふりかえって」
――日本の過去・現在・未来――

東京大学法学部教授
佐々木 毅氏（S36卒）

今年の政変劇を見ていると、長期的にものを考える時期が来たと実感する。

振り返ってみると、戦後の日本にはいろんな段階があった。ここ三、四十年はいい時代だったとも言えるが、何かおかしな時代であったとも思う。昭和三十年頃までは世の中が変わらない社会があった。ところが、いわゆる五十五年体制の時代になって、日本が大きく変わる時代になった。忙しく時間に追われる時代になり、日本は戦後の西側諸国の中では稀有なほど、よく働き急成長を遂げた。今考えると、日本は単線的な国で、これは非常なエネルギーと国民の一体性に裏付けられていたのは間違いない。

ただ人間社会は、いいことの裏には必ず悪いことがある。環境整備などに膨大な投資がなされたが、その裏側のコストとのバランスシートが考慮されなかった。このバランスシートのファクターの取り方には議論があろうが、今いろんな所で綻びが出てきていることは誰もが認めるところである。経済システムは道義性を失い倫理的崩壊が見えてきているし、政治の道義性も行政の道義性もあやしくなってきた。これは繁栄に伴って出てきたものである。昭和六十年頃までは、巨大な協調的システムで動いてきた時代で、過度に組織化された社会の中でさまざまな病理が出てきた。

国際的には、外国が日本をどう見ているかを考えず、国内的な発想で外交を行う、自己中心的なことをしてきた。今や日本が巨大化したので、日本自身の手でバランスシートを取ってくれというのが外国の態度である。日本が独自に新しいシステムを作ることが、現在と未来をつなぐキーとなろう。

政治の分野では、未来をどう変えていくかということがテーマになる。具体的には、どのようなシステムで、誰が、どのように変えるかということである。

最近の日本の大きな特徴は、国民の、変化に対する許容量が大きくなったということである。有権者の限りない自由な選択が政党を苦しめている。先行きは全くわからないが、政治が変化を始めたことは間違いない。これからは変化の歯車が早くなる。政治の方から変えようという志向が、私と同世代の政治家から出てきている。他国では見られない大きな変化をするかも知れない。

今後は、国民経済という概念がなくなり、いわゆる五十五年体制の、企業・行政・政治が一つの巨大な塊となっていたものがバラけてくる。日本の国民経済は国内だけで成り立っているわけではないので、これからはどんどん外へ出て行く。経済的には一種のミニ帝国化していくであろうが、これは特に外交に難しい問題を提起すること必定である。六十五歳以上の人口比率が膨大になる前に何らかの意志決定をしなければならない。これからは特にアジア外交が難しくなる。

今政治家の書いた本が売れていることから考えて、国民が何かを感じ始めていることは確かである。こういう国民の間の変化を見逃してはならない。二、三年すればおそらく各論的なものが出てくるであろうが、時間の関係もあり今日は立ち入るのを控えさせていただきたい。

天上天下

▼男鹿で作る最後の「丸木舟」が完成し、真山神社の境内で進水する日を待っている。ただ一人でチョウナ（手斧）を振るい少しづつくり貫いていく船大工の姿を見て大変な作業だと感じた方も多く、県外から見学に来た人もいる▼しかし、完成までにはたくさんの人の協力があった。一千万円以上もかかる丸木船を作ることに賛同した人たち。伐採・運材にあたった人たちら縁の下の力持ちがおり、先人の文化を伝えるためその作業の全てが記録された▼一昨年秋、丸木舟を作る杉の巨木を探すのに真山を歩き回り、少し小さいがなんとかなりそうな木が見つかったのは、標高五百七十一メートルの頂上近い所だった。急斜面で伐採しても運び出せないので残っていたのだ▼伐採は去年三月末かつて山で仕事をしたことのある六十歳以上の人たちが行なった。現在は会社の役員などを務めている人たちだが、だれが指揮するということもなしにそれぞれが作業を分担し得意の分野に腕を振るった。▼山でのしきたりや作業には生活の知恵が随所に見られ、急斜面の凍った雪の上を走るように動き回る姿や話の中からは、かつてはつらく厳しい日々だったことが伺われた。▼時の流れと共に生活習慣もどんどん変わっている。今回の丸木舟の制作のように記録が残ったとしても、その技は消えていくものが多い。後継者がいないだけが問題ではないようだ▼男鹿の山の木で作った丸木舟で海の幸を恵まれた漁師は、今、使わなくなった舟を神社に奉納。男鹿の人たちは、自然を大切にする心を伝えようとしている。

丸山新同窓会長に聞く

九月二十六日の総会で第七代の同窓会長に丸山健氏（昭和十四年卒）が選任された。「突然の就任要請で私自身まだ驚いている」というものの、静岡大学と秋田経済法科大学の学長を経験、さらに県の各種審議会の代表として発揮している調整手腕には定評のあるところ。同窓会の原点は「母校を誇りに思うこと」と強調する丸山氏に新会長就任の抱負を語ってもらった。

同窓会長への就任要請があったのは総会の数日前。「これまで同窓会の役員経験もないし、これは困ったなと思ったが、諸先輩の熱心な説得に引き受けざるを得なくなってしまった」。とはいえ、母校に寄せる思いは人一倍強いだけに、いまは、同窓会活動の充実に思いを巡らせている。

就任して三カ月余り。まだ勉強中と謙遜するが、各支部の総会には積極的に出席し活発な動きを始めている。「次第に各常置委員会の機能が理解できてきたしなによりも副会長はじめ皆さんがいろいろなことを教えてくれる」。

在学中の思い出は、旧東根小屋町校舎の風格のあった建物や石廊下の様子、また手形校舎への移転などなど。石廊下に張り出された成績表、当時の制服、また自分の机を持って歩いての校舎引っ越しについて語る時「秋中生」の昔に戻ったかのような表情を見せる。

同窓会の原点は秋田高校を卒業したことに誇りを持つことと語る。「自分が選んで入り、選ばれて入学したことを忘れないでもらいたい。それが同窓意識につながる」。同窓生一人一人が生徒時代に求めた理想、夢を思い出してほしいと言い、そのロマンを追い続けることが同窓会とのきずなにもなると語る。「その意味では、いまの生徒たちは大学受験に追われているようで余裕がないというか可愛想だ」とも。

県総合開発審議会など各種審議会・委員会のメンバーとして県勢発展のため提言を続けている。「定住促進などに少しずつ実を挙げてきているものもあるが、出生率の問題や交通体系などまだまだ課題が山積している。高等教育機関の充実などもそのひとつ。人材育成の基本は教育であり、これまでの教授そして学長経験に加えて、同窓会という新しい視点を踏まえながらより広く教育問題について意見を述べていきたい」。

「出来るかぎり各会合や各支部の総会に出席する」と意欲満々の中で、未だ実現していないのが現在の校舎を訪れること。一日、一刻でも早く今の校舎を見たいと気をはやらせている。

学校創立百二十周年の節目も過ぎ、次の二十一世紀をにらんだ同窓会の活動にどんな新しい風を吹き込むか。温厚な人柄と深い識見そして組織の運営にみせる卓越した手腕に期待が集まっている。

●●●塩田前会長勇退●●●

内藤庸雄会長の死去を受けて第六代会長に塩田雄次氏が就任した昭和六十年当時は、母校新校舎の改築が始まるという多端な時期であった。前年同窓会に専任の事務職員が置かれ、同窓会活動の本格的てこ入れが始まったとはいえ、校舎改築に伴う混乱と設備も人員も不十分な中で手探りの作業が続いていたため、まず軌道に乗せるのが新会長に与えられた課題であった。

以来八年、事務局スタッフも増強され、校舎の間借りから新築成った校史資料館の一角に独立移転し、名簿入力のためのコンピューターを導入するなど活動環境は飛躍的に整った。

また、塩田会長は活性化対策の一環として四常置委員会を発足させるとともに、昭和六十二年には当番年次制をスタートさせ、平成元年には水戸一高同窓会「知道会」との姉妹提携を実現させるなど同窓会の弾力的運営に指導力を発揮した。さらに昭和六十三年から本格的に検討が始まった百二十周年記念事業についても、終始その中心となって前出校史資料館を見事完成に導いた。

六年の長期にわたるご労苦とご功績に改めて深い敬意を表したい。

なお塩田前会長は、平成六年一月八日急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

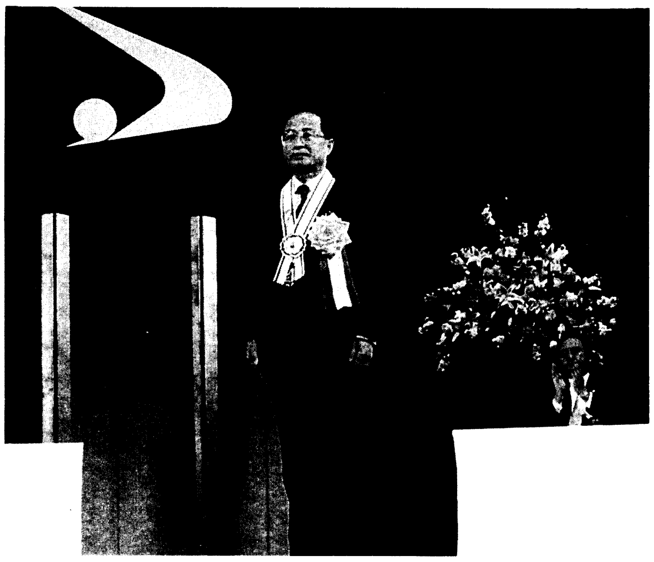
佐藤　菊夫氏国際芸術文化賞授賞（昭和22年卒）

平成5年8月11日、東京・銀座の日本文化振興会事務局で、指揮者佐藤菊夫氏に顕彰式が行われた。同氏はウィーン国立音楽大学で指揮・作曲を学び、帰国後、日本の管弦楽界の常に指導的立場で活躍され、中央楽壇で著名オーケストラの指揮をとって、名演奏を提供し一方、東京管弦楽団音楽監督、東京合奏団主宰兼常任指揮者、東京・横浜の両合唱研究会の常任指揮者として指導・育成をはじめ、世田谷区民吹奏楽団理事長兼音楽監督などの任にも当たり、意欲的な音楽活動を展開している。

特に昭和38年より春秋２回の「佐藤菊夫コンサート」定期公演を、自ら企画・構成・指揮により継続し、今秋59回目の公演を迎えることは、日本の楽壇での壮挙である。同コンサートでは数々の海外の作品を本邦に紹介、初演しているほか、同氏の音楽活動の根源にある「国民主義」の見事に結実した数多くの邦人作品の演奏は、聴衆に多大な感銘をあたえた。これは、ただ単に我が国のみならず、広く世界の人々にも高く評価され、国内外の音楽文化の向上発展に寄与された功績は、誠に顕著であると認め、その栄誉を永久に讃えたものである。

なお、これまでの国際芸術文化賞は美術関係が中心で、日本画家の小倉亀遊氏、彫刻家の北村西望氏、美容家の山野愛子さんらが受賞しているが、クラシックの音楽関係としては、今回の佐藤菊夫氏が最初の受賞者となる。栄誉に心から祝福申し上げる次第である。

明石特別代表が名誉県民に



国連カンボジア暫定統治機構（UNTAC）の事務総長特別代表として、国連史上最大規模の平和維持活動を成功に導いた明石康氏（62）＝昭和二十三年卒比内町出身＝に十月二十六日、県から名誉県民の称号が贈られた。名誉県民の称号は故小畑勇二郎前知事、山崎貞一TDK相談役、日沼頼夫京大名誉教授に続いて四人目である。

明石氏は昭和三十二年、日本人最初の国連職員として国連事務局に入り国連代表部参事官、公使、大使を歴任。同五十四年、国連に戻り広報担当事務次長、六十二年から軍縮担当事務次長の要職にある。

明石氏は昨年一月、UNTAC国連事務総長特別代表に任命され、三月にカンボジアの首都プノンペンに入った。そして日本の陸上自衛隊施設大隊や文民警察官をはじめ二万数千人にのぼる各国の要員と二十億ドルを投じた国連史上最大の平和維持活動（PKO）の陣頭指揮にあたり、ことし五月には初の制憲議会総選挙を実現、暫定政府を樹立させるなど内戦続きのカンボジアに和平をもたらす立役者となった。

任務を終えた明石氏は十月十七日に帰国。二十四日から二十九日まで古里秋田に滞在した。二十五日に秋田市で第二十八回国連運動大会に出席して講演したのをはじめ二十六日は名誉県民の顕彰式とそれに続く講演、二十七日は県商工会議所と母校での講演会、二十八日は出身地比内町での名誉町民顕彰式及び講演と、ゆっくり骨休めをする間もない超多忙なスケジュールをこなした。

秋田市滞在期間中の手配は、昭和二十三年卒同期会が中心となって奔走し、母校での講演会も同会の尽力で実現した。

母校を訪れた明石氏は生徒たちの熱烈歓迎を受けたが、各地の講演会で明石氏は、カンボジアPKO成功の理由について、何よりもカンボジア国民が二十三年もの長い内戦に倦み、真に平和を望んでいたことを第一に挙げ、次にUNTACが武力衝突よりも粘り強い政治外交交渉を選択した結果だと強調した。

同時に明石氏は東西冷戦時代の終焉は、かえって地域紛争の多発を招き、PKO全盛時代を迎えているとしたうえで、「PKOにもさまざまなオプションがあり、日本の国際貢献もカンボジアPKOを参考に、今後のあり方を探っていくべきだ」と述べ、国際社会における日本の役割に期待感を表明した。

大役を終えたばかりの明石氏に今後のことを尋ねると、「やりがいのある仕事ならまだチャレンジしてみたい」という答えが即座に返ってきた。行動派国際人らしく早くも次の仕事に意欲満々である。やはり、明石氏には世界の桧舞台が似あっているようだ。

なお明石氏は、旧ユーゴ問題担当国連事務総長特別代表に就任された。

秋高二六年卒同期の皆々様のご健康をお祈り申し上げます。

◎昭二六年同期会（高校第三回）

会長　小泉　春雄
副会長　安東　義之
理事　稲葉　勉
〃　奥田　重直
〃　太田　洋生
〃　春日井尚正
〃　菅原　豊
〃　竹谷徹三郎
〃　藤原　毅
会計　佐々木由行
監事　米谷　節郎

関東地区同期会

幹事長　保坂　隆司
幹事　朝倉　俊夫
〃　佐々木研吾
〃　佐々木清水
〃　辻原謙三郎
〃　長門　幸雄
〃　山下　直樹
事務局　三田　茂
事務局長　佐藤　二郎

秋田銀行

栗谷重雄
小松和久
斉藤喜一
斉藤久士
佐々木邦夫
沢石善裕
高塚純一
村山恒平
鷲谷康一
（S43卒）

秋田トヨペット㈱

高田　宏（S30卒）
伊藤　俊成（S33卒）
根田　広志（S34卒）
杉田　豊明（S43卒）
田中　道生（S43卒）

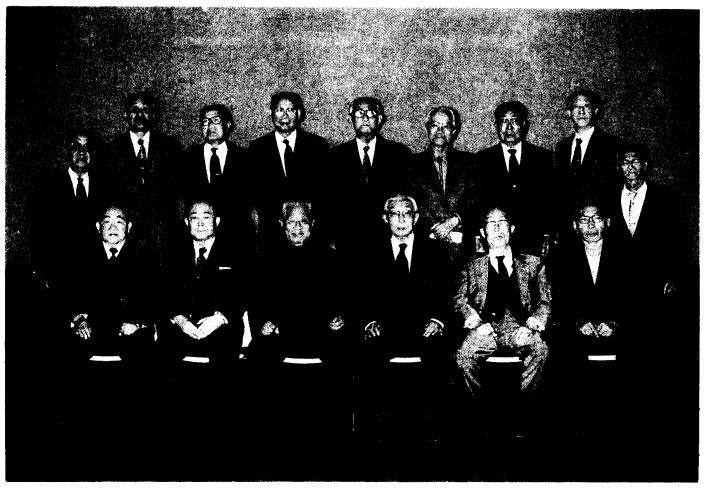
平成五年度 秋田高校同窓会近畿支部総会

カッと照りつける太陽の暑い日が極めて乏しいこの夏ではあったが、どうやら秋らしい季節となった去る9月19日（日）の正午、大阪市内の東興ホテルに同窓相集い、平成5年度の総会が賑やかに開催された。本部から、伊藤守一事務局長とこの春着任された椎名光雄学校長のご臨席を仰ぎ、また、地元から魁新報社大阪支社長と秋田商業、秋田工業、本荘高校各関西同窓会代表のご臨席も頂き、会員40名が駆けつけての盛会であった。

総会は渡邊幹事長（S20卒）が司会し、萬田幹事（S28卒）を議長に選出して議事を進め、規約案審議、役員選任、会計報告等各議案について満場一致これを承認、乃至決議して滞りなく終了。小休止の後、待望の懇親会に移った。

懇親会は籾山幹事（S29卒）が司会して、栗谷支部長（S11卒）の開会の辞で幕を開け、つい先日の母校創立120周年記念レセプション出席の感想を交えての各位への謝辞で始まった。椎名学校長からは持参された「学校概要」のレジュメを配布しての現況報告を頂いたが、今後の課題として文武両道に今一つ〝活〟を入れて行きたいとの力強い発言が印象的であったし、伊藤事務局長の120周年行事の報告に加え、当初の募金目標が未達成であり現在尚受け付け中であるとの笑顔の中の要請には一同大いに爆笑。次いで石田伸雄先輩（T14卒）の発声で乾杯し、ご来賓方のユーモア溢れるスピーチを折り込みながらの歓談は、幾つもの人の輪が大きく、小さく、揺れ動きながら移動して時の経つのも忘れるほど。最後は石黒顧問（前支部長、S6卒）の閉会の辞により、再会を約して終了した。（渡邊記）

昭五会の記



今年は母校の創立百二十周年記念同窓会総会の翌々日九月二十八日、恒例の昭五会を千秋会館で開いた。

今回は県外よりの参加者がなかった。然し昨年より二名多い十五名が出席した。

午後三時開会、物故者鈴木光義君の霊に黙禱を捧げた。本間幹事より会務の報告あり、加えて記念式典で功労者として安倍氏が表彰されたこと、塩田氏が病気療養のため上京中で欠席の旨が伝えられた。笹山氏から母校百二十周年記念事業基金募集の結果が報告された。内容は各位の拠金額の外に、会長塩田氏五十万円と、安倍、笹山両氏の五万円が大きいので期待額の三二・五%の九十九万五千円に達した。皆様に感謝するとのことだった。

ついで本間氏より同窓会総会に於て、塩田氏の病気による会長辞任が伝えられた。笹山氏からこの際塩田・安倍両氏を昭五会の名誉顧問に、そしていままでの十年間、殆どお一人で会の運営に当られた本間氏を、会長にお願いし、この後も会務を続けてもらいたいとの動議が出された。これに対し一同の拍手あり、本間氏は苦笑し乍らも快諾された。皆から大変御苦労様ですと、異口同音の声が上った。

遠来の柴田与太郎氏の乾杯により宴に入った。本間氏のワープロによる「欠席者の一言」を中心に、友達の近況を懐かしく語り合った。そしてお互いの健康や家族のことなど、またきびしい目下の世相や、今年の著しい冷害など、話は盡きなかった。やがて二時間あまり、校歌「天上はるかに」を懐かしく斉唱、五時三十分、またの再会を期して散会した。

出席者十五名　安倍興・相沢謙一・伊藤彰・伊藤武雄・大島秀太郎・金沢英治・桜田正吉・笹山秀武・柴田与太郎・高橋信光・本間喜次郎・松葉重敏・宮崎政一・和賀茂・藤本儀一（藤本記）

秋高五十一期会

秋中昭和十三年卒同期会は、母校の創立百二十周年記念式典の当日、秋田スカイホテル九階の「北かまくら」で二時半から開会された。

総勢二十一名が参集、記念撮影を済ませ、大槻幹事が司会進行し、同期物故者への黙禱をする。東京紫紺会辻君からの祝電披露の後菅原代表幹事から、「ことしはわれわれが秋田中学入学六十周年、卒業五十五周年の記念すべき年で、お互いが健康で再会でき、母校の発展を目のあたり実感できる喜びを祝福する。」とのあいさつがあり、出席者各自から二～三分の近況報告に移る。

海外旅行の話、趣味の自慢話、健康談義、さては闘病体験等、ユーモアを交えてのスピーチのリレーが終わったところで、西田君（東京紫紺会）の音頭で乾杯、季節料理に舌鼓みを打ち、美酒に酔い、文字通り膝を交えての歓談に、いつの間にやら予定の時間も迫り、菅原晃一君（仙台支部長）の乾杯で一応締めをし、小松君の発声で高らかに校歌を斉唱、泉君が応援歌をリードし、一同再会を約して別れた。

不日宇梶君から当日の感懐を託した漢詩を寄せられたので披露して結びとする。

同期朋友鬢如霜
五十五年夢一場
握手叩肩歓不盡
往時髣髴氣軒昂

当日の出席者、次の通り

安東誠、石井茂治（札幌）石田秀一、泉富士男、伊藤市郎、伊藤繁雄、宇梶正、江見喜代彦、大槻家静、小松義一、柴田均一、進藤一雄、菅原晃一、菅原繁雄、鈴木哲郎、高安泰助、西田壮吉、畑澤恵平野庫治、宮崎金一、吉井忠亮　（菅原繁記）

小澤・佐々木両君の受章祝賀会 秋中五十期会（昭12卒）

秋中五十期会（昭和12卒）では、小澤雄象君（勲五等双光旭日章・県文化功労賞）、佐々木茂雄君（勲五等瑞宝章）の受章祝賀会と忘年会を兼ねて、平成五年十一月二十日、秋田市アキタニューグランドホテルで、会員二十六名が参集して、両君の受章を盛大にお祝いするとともに、恒例の那波君から贈られた銘酒を思う存分に味わって懇親を深めた。

小澤君は、歯科医院長の多忙にもかかわらず、秋田県のラグビー界に尽力、県ラグビー協会長として本県ラグビー界の向上に寄与。また佐々木君は秋中卒業いらい、自動車整備事業に携わって、本県業界の会長のほか、全国協会の副会長を長年にわたって務め、現在も現場で後進の指導に当たっている。

会では、両君の功績と受章を讃えて、記念品を贈呈。それに対して両君は「好きな仕事を長年やってきただけであるのに、このような栄誉を受けるのは身に余る光栄」との謝辞があって、米沢君勲三等受章のニュースが入るや、昨年の阿部新、桜谷吾郎両君の受章と合わせて、「五十期会万歳」を三唱、最後に、秋高校歌と秋高百二十周年万歳を声高らかに歌いあげて閉会の三々伍々二次会場へとくり出して、七十余歳の老青年健在なりの意気軒昂を見せた。

直ちに懇親会。杯を重ねるごとに会はいやがうえにも盛りあがり、東京支部から、

〈出席者〉、小澤雄象、佐々木茂雄、山崎忠秀、根本常夫、桜谷吾朗、藤崎吉次、沢石謙、近藤達郎、阿部新、三浦善一郎、坂本元、渡辺喜一、佐藤俊三、京野大三、那波三郎右衛門、鳴海健治、伊藤繁雄、加賀谷文明、亀谷幸雄、田中義郎、福田兼一郎、幸野敏夫、相沢弘、伊藤博次。

なお、欠席の次の諸兄からは、両君への祝辞と体調思わしくなくとの事情が寄せられ、五十期会も七十歳を越えると「健康第一」との感を深くした。（沢石記）

小西（理）、菊地、森川、小川（俊）、岩間、柴田、小西（庄）、木村、太田、荒川、山田、佐藤（友）、小林、千田、小玉、草薙

山王整形外科医院
院長
湊　昭策
（S36卒）
秋田市山王中島町15－18
TEL 0188(64)1100

㈱平野井本社
社長
平野井昌弘
（S36卒）
秋田市旭南3-2-33
TEL 0188(23)5336

医療法人仁政会 杉山病院
杉山　和
（S36卒）
〒018-14
南秋田郡昭和町大久保字北野出戸道脇41
TEL 0188(77)6141

㈱チャイルドまつや
社長
新開　明
（S36卒）
秋田市手形山崎160-10
TEL 0188(32)6910

加藤病院
院長
加藤　征夫
（S36卒）
河辺郡河辺町戸島上野4－3
TEL 0188(82)3701

相場歯科医院
院長
相場　進
（S36卒）
秋田市茨島2-3-60
TEL 0188(63)8787

四度目の春の甲子園出場か

硬式野球部　東北大会準優勝

10月9日より12日に開催された第46回秋季東北地区高等学校野球大会において、本校野球部は順調に上位に駒を進め、準優勝を果した。県大会を第二代表で東北大会に進んだのであったが、調整の段階で天候にも恵まれ、ベストに近い状態で大会に臨んだ。緒戦は宮城県第三代表の仙台工業であった。好投手桜井を中心に前評判が高いチームで、予想通り一点勝負となり、今投手の好投で延長の末二対一で辛くも勝利を得た。二回戦は福島県第二代表の郡山商業であったが、池田が緩急をつけた投球で相手打線を翻弄し、相手投手の不調にも助けられて、四対一で勝ちあがった。準決勝はこのブロックの最強と目されていた岩手県第一代表の盛岡人附属であった。相手のミスに乗じてこちらのリズムをつかみ、打線も奮起し、総力戦で何とか勝利を手にした。決勝は、投打とも充実している東北高校（宮城県第一代表）であった。相手主戦投手島、本校主戦投手今ともに三試合目の登板となり、打撃戦が予想されたが、両投手とも要所を締め大量点に至らず、終盤に追いかけたものの、三対四で惜敗した。十一月に行なわれた神宮大会において、東北高校が圧倒的な力で優勝した事実からしても、本校の善戦も特筆すべきものであったと思われる。

（部長　神居隆）

柔道部　全国選抜大会出場決定!!

11月26日、経法大付高において第16回全国高等学校柔道選手権大会（全国選抜）秋田県予選兼全県新人戦が行なわれ、三年ぶりの優勝をあげることができました。

二回戦
秋田　三人残し　秋田南
三回戦
秋田　三人残し　横手工
準決勝
秋田　二人残し　大曲農
決勝
秋田　三人残し　経法付

男子個人無差別級　決勝
奥村俊樹　支釣込足　小林

女子個人　61kg級
優勝　三浦ひろみ

ここ二、三年インターハイ予選、選抜予選と二位を続けていただけに私以上に部員全員が「今度こそ優勝」と強く思っていたようである。今年のチームも重量級は一人もおらず、小型チームの最大の課題である「スピード」「技のきれ」に力を注ぎ、十、十一月の練習においては、各自が自分の柔道を最後までやりぬく練習姿勢をみせ、主将の小林大輔がよくチームをまとめた結果と思っている。

3月20日の個人戦（奥村・三浦）21日の団体戦が行われますが、残り3ケ月、この優勝に部員が妥協することなくさらに上を目ざす意識を持たせ、一つ一つの技と技のつなぎを中心にした練習をし、柔道OB各位先輩の期待にそえるよう上位入賞を目ざし部員一丸となって努力していきたいと思います。

（監督　佐藤信英）

男鹿市同窓会活動状況

去る八月二十八日(土)、午後二時三十分より男鹿市長・佐藤一誠氏（昭39年卒）を招聘し「男鹿市の現状と将来について」の演題により、第十二回文化講演会を開催。その後、平成五年度の総会を開催。

男鹿市商工観光課長・高橋金一氏（昭37年）司会で開幕し今山行毅会長（昭14年）が「本年五月に初当選の佐藤市長から、市政について」前記演題による講演会開催の挨拶があった。

次に、秋山秀麿幹事長（昭27年卒）が「同窓会活動を通じ、郷土・男鹿の文化向上と経済振興を念願しての文化講演会は、広範な地域社会に膾炙されかつ、正鵠を得つつ今回十二回を迎えるに至った経緯と講師紹介」をした。併せて「同窓生として、新市長・佐藤一誠氏が弛まぬ熱情により現実的な政策を樹立され果敢にして旺盛な実行力に基づき、男鹿市が大躍進を遂げられる様、大なる御尽瘁を懇望」する旨の強いエールをおくった。

佐藤市長は、約二時間、(一)、「自然と調和した海洋・観光都市」(二)、「期待される若人とスポーツ振興」(三)、「高齢化社会対策」(四)、「社会資本充実」(五)、「地場産業振興と安斉氏等の歴史的・文化遺産の発掘整備」等について、同窓生等の二百人に熱弁を振って有意義に終了。尚、平成三年八月の第十回講演会は記録映画監督・岩崎雅典氏（男鹿出身・昭三四年卒）製作の記録映画を上映して、講演会を開催し深い感銘を与えた。映画は(一)、厳冬の男鹿「荒海の使者ハタハタ」(二)、絶滅寸前鳥類の王「イヌワシ・風の砦」

また、昨年十一月には、男鹿市立総合病院副院長佐藤公氏（昭33年卒）の「ガンとエイズ」に関しての第十一回講演会を開催し、就中、エイズについては全国的にも先鞭をつけた講演会として好評を得た。

資料希望者は秋山まで。

平成五年度総会は百万円の決算・事業報告等の承認を得、懇親会は学校長等六十人の出席者によって盛会裡に終了した。（秋山秀麿）

事務局だより

◆秋高創立百二十周年記念事業も同窓会員各位のご協力により無事成功裡に終えることができました。皆様のご協力に対し、心から厚く御礼申し上げます。

◆事業資金の寄付金は、十月十日現在で、六千余名の方々から八、三三二万円の募金をいただいております。

◆近く、ご芳名と寄付金額を記した一覧表と、収支決算報告書を皆さんに送付の準備をしております。

◆記念事業の主たる「校史資料館」の建築にあたっては、学校林を使用して木造建としていうことで進めてきましたが、建築に使われた学校林の杉材は約一三四m³で、金額にして約三四〇万円相当のものが使われました。

◆本年度の総会で別記のとおり会長・副会長に異動がありました。其の後常置委員長にも変動がありました。

◆近く、新しい委員会を構成し活動に入る予定ですので、よろしくご協力願います。

慶祝

（判名分・敬称略）

勲三等旭日中綬章
米澤　利英　S12
加賀谷徳治　S13

勲四等旭日小綬章
加賀谷力司　S9

勲四等端宝章
内藤　賢一　S14

勲五等双光旭日章
小澤　雄象　S12

文部大臣表彰
今村　久悦　S9

秋田県文化功労者
小澤　雄象　S12

哀悼

（判明分・敬称略）

進藤　四郎（S20）秋田市5・8
佐藤　久一（T15）矢島町5・8
近江　鄧（S12）秋田市5・8
小島　久夫（旧職員）秋田市5・8
岡　正男（S13）天王町5・9
若狭　金治（S13）秋田市5・9
斎藤　鉉吉（S9）秋田市5・9
金子　恭三（T12）秋田市5・9
菊谷敬次郎（S2）秋田市5・10
佐々木長八（S8）大曲市5・10
佐藤　幸助（T8）秋田市5・11
宮原　茂（旧職員）秋田市5・11
渡部　純司（T5）北本市5・12

会務報告

▽だより41号で報告後の会務は次の通りであります。

7・24　常任理事会・理事会
29　120周年校史委員会
8・10　校史資料館竣工検査
11　〃　竣工式
22　36年次同期会
26　120周年行事委員会
9・1　創立120周年記念式典
10　〃
13　〃　招待試合
16　当番年次打合せ会
18　役員会議
19　五城目支部総会
20　25年次同期会
23　近畿支部総会
26　名簿委員会
27　通常総会
28　創立120周年記念国内研修結団式
28　〃　出発
10・4　120周年施設委員会
8　広報委員会
28　営林局支部総会
29　120周年行事委員会
31　37年次同期会
11・2　追分三叉路会支部総会
13　120周年校史委員会
22　西仙北支部総会
24　120周年募金・名簿合同委員会
27　正・副会長会議
12・2　120周年総務委員会
8　岩手県支部総会
10　120周年実行委員会
15　120周年会計監査
15　常任理事・理事会
15　能代支部総会

合資会社　一　力
代表社員
堀井　軍平
（S34卒）
秋田市山王中園町3－8
TEL 0188(63)7533

高木内科胃腸科医院
高木　紘一
（S34卒）
秋田市将軍野南4丁目6－2
TEL 0188(45)1118

快適環境づくり、おまかせください。
マット、モップから…まだまだあります選べます。
ダスキン愛の店フランチャイズチェーン店
清三屋商事株式会社
ダスキンきよみや
代表取締役　長谷川善四郎
（S33卒）
秋田市八橋新川向12－9　TEL 0188(62)3351
DUSKIN 愛の店

小泉耳鼻咽喉科医院
院長
小泉純一郎
（S25卒）
〒010
秋田市中通二丁目1－41
TEL 0188(32)3637

小僧寿しチェーン
㈱清三屋
代表取締役社長
長谷川吉郎
（S25卒）
〒010
秋田市八橋三和町6－17
TEL 0188(64)6911

㈲堀井経理研究所
堀井会計事務所
公認会計士・税理士
堀井　照重
（S34卒）
秋田市山王中園町10－26
（児童会館通り）
TEL 0188(64)1522㈹

株式会社　山　二
社長
西村紀一郎
（S34卒）
秋田市中通2丁目5－20
TEL 0188(33)6611

保険調剤　小番薬局
小番　忠弘
（S33卒）
〒015-04 由利群矢島町豊町
TEL 0184(56)2537

曲木家具・注文家具
秋田木工株式会社
取締役会長
奥山　信吾
（S3卒）
取締役社長
阿部　行夫
（S33卒）
〒012 湯沢市関口字川前117
TEL 0183(73)0123・FAX 0183(72)2019
営業所：東京・大阪・仙台・秋田

株式会社　角　繁
代表取締役会長
渡邊　繁雄
（S25卒）
総務部
田中　孝一
（S25卒）
〒010
秋田市中通二丁目1－22
TEL 0188(33)9461
S25卒同期会事務局

株式会社　菅与組
代表取締役社長
菅原　三朗
（S25卒）
〒018-14
南秋田郡昭和町大久保
字提の上91-100
TEL 0188(77)4117